

《要約》

日本では、少子高齢化が急速に進んでいる。高齢者人口の急増と生産年齢人口の減少は財政と経済成長の負担になる時代が到来しつつある。そして、労働力の不足が経済成長の足かせになることが懸念されている。

労働力不足を補おうと、女性や高齢者の活躍推進などの政策がとられている。しかし、流れを変える力はない。そこで、最も有効な対策と考えられているのが、外国人労働者の受け入れだ。ただ、治安の悪化や価値観の対立など、社会のあつれきを理由に、多くの国民が抵抗感を持っている。

しかし、日本の外国人労働者は欧州に見られるような「移民」ではない。彼らはいずれは家族のいる母国に帰る「労働者」だ。また、今日、外国人労働者は、日本のいくつかの地域・産業にとって必要不可欠な存在になりつつあり、その数は米国やドイツと比べて多いとは言えない。むしろ、大きな問題は、日本が外国人労働者を短期的な雇用の調整弁としてきたという側面だ。「技能実習生」の事例では、外国人を農業や建設業など人手不足の現場で低賃金で酷使ししたため、劣悪な労働環境が社会問題になった。

世界の人材獲得競争に出遅れた感のある日本だが、東南アジアの若い労働力を呼び込めれば、挽回のチャンスはある。その際、持続的な成長を実現するためには、良質な外国人材の受け入れのあり方を中長期的な観点から検討する必要がある。

①要約なので、全体を少しずつ縮めてエッセンスを残していく、というイメージです。

②その際、少子高齢化→労働力不足→外国人労働者の受け入れ→これまでの反省を踏まえ中長期的な受け入れのあり方を考える必要あり。これが一本の流れで、細かな事例の多くはそれを補強するために書かれていることなので、詳しくは書けませんし、その必要もありません。全体の流れを見極め、取捨選択しましょう。

③この文章は、段落の他に一行分のスペースがあります。ここが大きな区切りになっているので、要約もその部分に対応させるように分けました。

④意味を変えない範囲で接続詞（そして、しかし、むしろ）を使い、文章に流れを作りましょう。そのほうが読みやすいです。また、文章は短いほうが読みやすいです。

《指摘と意見》

長所と短所をそれぞれ2点指摘したい。

長所の1つ目は、日本人の価値観の多様化だ。外国人労働者を通して日本人は世界の文化と価値観に触れる機会を持つ。その経験は長い目で見れば、日本人の価値観を多様化させる。

長所の2つ目は、彼らが実社会で戦力になっている点だ。介護、農業、建設だけではなく、コンビニ、外食産業、新聞配達など、私の生活圏の中でも、多くの外国人労働者を見かける。ここまで浸透したら、外国人労働者なしでは社会が機能しないのではないか。

短所は、社会保障や教育などの費用の負担と、地域住民とのトラブルや犯罪の増加だ。病気の時の治療費や子どもの教育にかかる費用は国民の税金や保険料から支払われる。公正な負担がなければ、彼らへの反感が生まれかねない。また、地域のゴミ出しのルール違反をめぐるトラブルや外国人による犯罪のニュースを聞く機会が増えた。これらは地域社会を分断する要因になるかもしれない。

私は長所が短所を上回ると考える。日本人は同じ価値観を持ち、時に息苦しさを感じる。逆に、外国人の行動を見て、ホッとすることがある。社会全体で見れば、彼らの価値観は日本社会を包容力のあるものに変えていくだろう。また、彼らの中には家族で日本国籍を取得し、芸術やスポーツの分野で世界的に活躍する人たちがいる。彼らは日本文化の良さを世界に発信すると同時に、私たちにも自分自身をもっと知るための機会を与えてくれている。

①指摘と意見ですから、長所と短所を端的に挙げました。箇条書きにするくらいの勢いで簡潔に書きましょう。書き出す前に、こんな構成にしようというメモを2-3分で書いておくのもいいでしょう。

②文章は短めにしましょう。それは分かりやすい、読みやすい、というだけでなく、文章の構成のミスを防ぐ意味もあります。例えば、答案の7行目に「…受け入れることは…創造できる」16行目には「大切なのは…設ける必要がある」という箇所があります。これは主語と述語が不一致で最も大きな減点になる箇所です。

③一応、これは私が書いた模範解答ですが、本文はほぼ無視していることがわかりますか。「長

所と短所を指摘した上で」という出題者の要求は、「あなたの分析力を披露しなさい」という要求と理解したからです。本文に長所や短所はあまり書いてないでしょ。だから、自分で考えてそれを表現するんです。まだ、慣れていないせいか、本文の内容に引きずられている印象です。でも、それは「要約」の問題で終わっているんです。第2問は自分の思考力、構成力、表現力が問われています。

④「あなたの考え」では出題者をはっとさせるような指摘をしたいですね。八村塁や大坂なおみ、サニブラウン、ケンブリッジ飛鳥などを念頭に「日本人」がどんどん世界に影響を与え始めているし、それは私たちへの刺激にもなっていて、それは包容力の社会につながるという点を指摘したいわけです。